

消費動向に関するアンケート調査 (2021年8月期)

調査結果の概要

- ・生活満足度の平均点は、10点満点中、岐阜県が5.6点、愛知県が5.5点。暮らし向きは、岐阜県が大幅に改善する一方、愛知県が僅かに悪化し、調査開始以来、最低となった。
- ・生活満足度、暮らし向きともに、調査開始以来、初めて岐阜県が愛知県を上回った。
- ・岐阜県の若年層では、消費動向の改善が著しい。
- ・前年と比較して、生活満足度が上昇し、外出型の支出が一部で増加するなど、地域差はあるものの改善の傾向がみられる。

調査要領

1. 調査方法 インターネットによるアンケート調査
2. 調査内容 生活満足度、暮らし向き、収入、消費支出
3. 調査期間 2021年8月10日～12日
4. 回答状況 有効回答1,260名 回答者の内訳は以下のとおり

回答者の内訳

(人, %)

地域別	男性	女性	計	構成比
岐阜県	210	210	420	33.3
愛知県	210	210	420	33.3
全国	210	210	420	33.3
合計	630	630	1,260	100.0

(人, %)

年齢別	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
30歳未満	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
30歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
40歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
50歳代	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
60歳以上	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0	42	42	84	20.0
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(人, %)

未婚・既婚の別	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
未婚	85	81	166	39.5	78	73	151	36.0	78	85	163	38.8
既婚	125	129	254	60.5	132	137	269	64.0	132	125	257	61.2
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(人, %)

職業別	岐阜県				愛知県				全国			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
公務員	12	7	19	4.5	12	4	16	3.8	20	1	21	5.0
経営者・役員	8	0	8	1.9	8	0	8	1.9	5	1	6	1.4
会社員	120	59	179	42.6	131	53	184	43.8	112	54	166	39.5
自営業・自由業	29	10	39	9.3	8	4	12	2.9	23	5	28	6.7
専業主婦(主夫)	2	54	56	13.3	1	70	71	16.9	0	57	57	13.6
パート・アルバイト	4	63	67	16.0	5	57	62	14.8	10	53	63	15.0
学生	6	1	7	1.7	5	4	9	2.1	8	8	16	3.8
その他	6	4	10	2.4	6	8	14	3.3	8	6	14	3.3
無職	23	12	35	8.3	34	10	44	10.5	24	25	49	11.7
合計	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0	210	210	420	100.0

(注) 端数を四捨五入しているため、内訳の合計等が合致しない場合がある。

1. 生活満足度

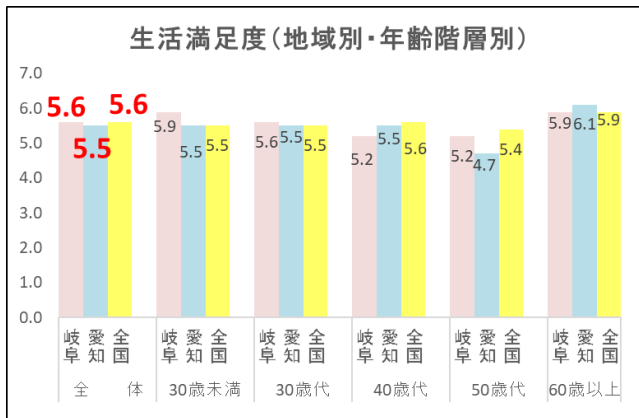
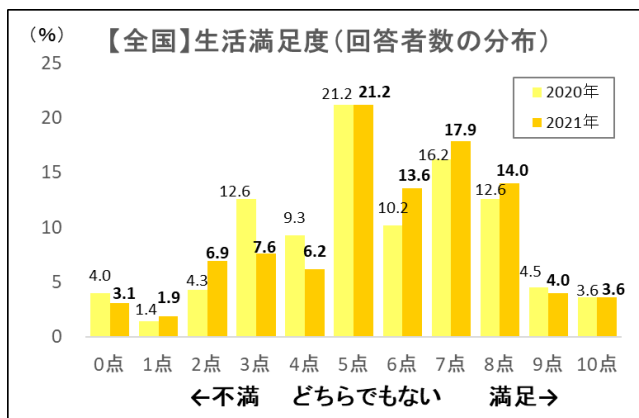
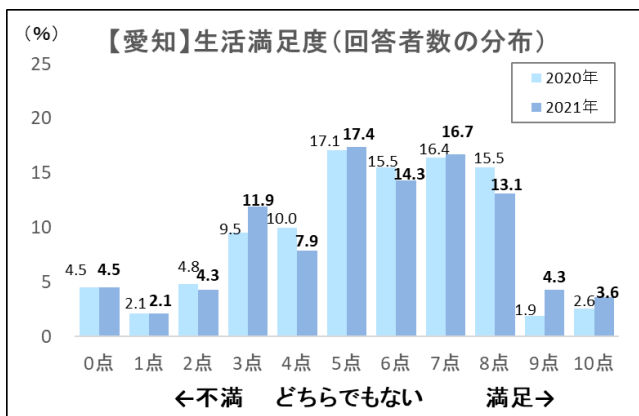
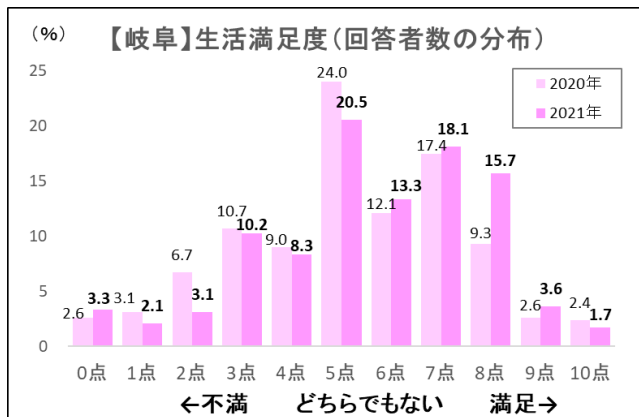
現在の生活にどの程度満足しているかについて、「とても満足」を10点、「どちらでもない」を5点、「とても不満」を0点とすると、何点くらいになると思うかを尋ねた。

回答の分布では、すべての地域(※)において「5点」と回答した割合が高かった。「5点」と回答した割合を前年と比較すると、岐阜県は減少、愛知県は微増、全国は変化なしであった。

生活満足度の平均点は、岐阜県が5.6点(前年調査比0.4点増)、愛知県が5.5点(同0.1点増)、全国が5.6点(同0.2点増)となり、前年と比較してすべての地域で上昇した。また、2017年の調査開始以来、初めて岐阜県が愛知県を上回った。

「0点～4点(不満)」と回答した割合は、岐阜県が27.1%(前年調査比5.0㊦減)、愛知県が30.7%(同0.3㊦減)、全国が25.7%(同6.0㊦減)であり、「6点～10点(満足)」と回答した割合は、それぞれ52.4%(同8.6㊦増)、51.9%(同変化なし)、53.1%(同6.0㊦増)であった。今回の調査は新型コロナ感染拡大第5波のさなかにあったが、岐阜県および全国では、第2波であった昨年8月に比べ、生活満足度は大幅に改善している。

地域別・年齢階層別の生活満足度の平均点をみると、岐阜県、愛知県、全国すべてにおいて、50歳代は50歳未満に比べて満足度が低く、60歳以上は高くなる傾向にあった。生活満足度が最も高いのは、岐阜県では同点で30歳未満と60歳以上、愛知県および全国では60歳以上であった。



2. 暮らし向き

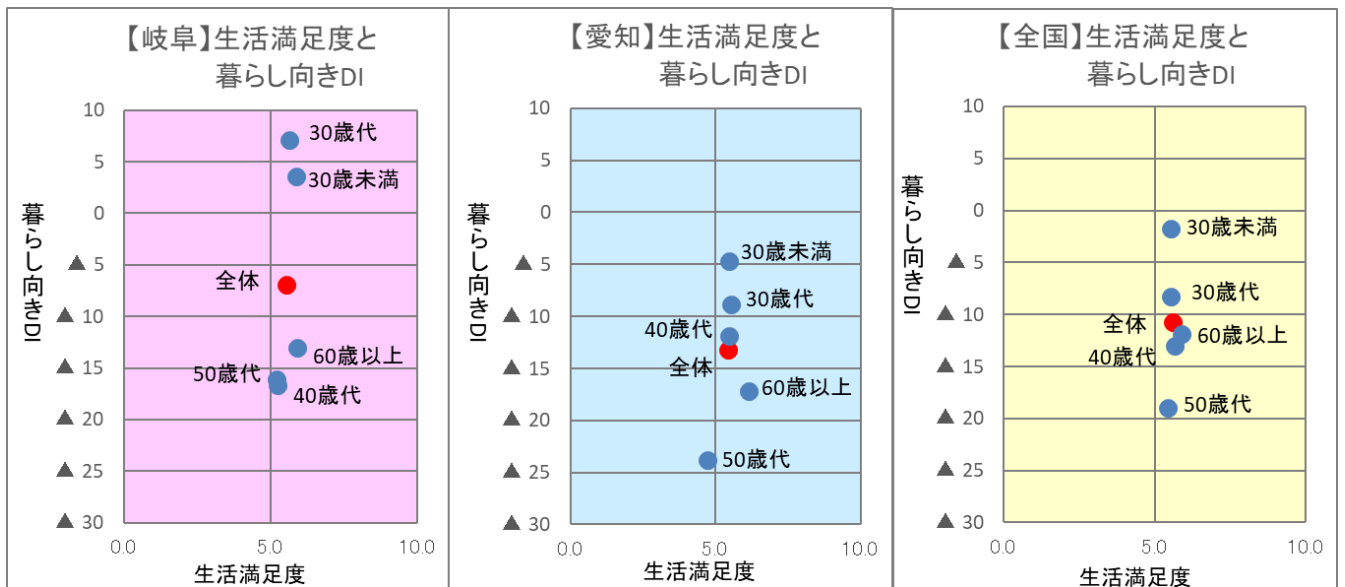
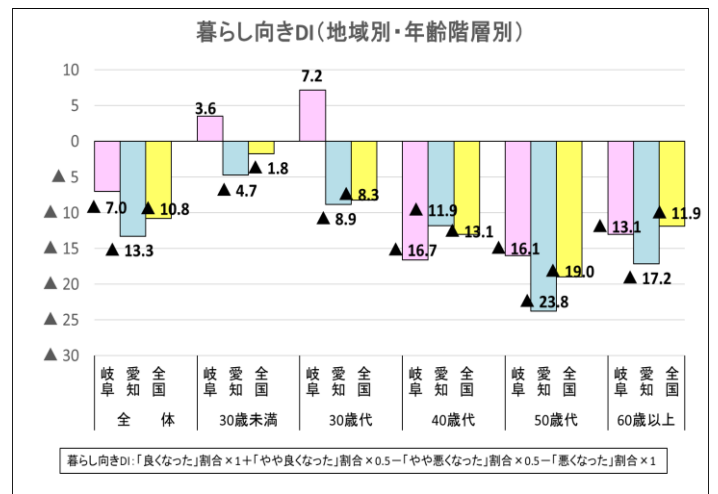
1年前と比較した現在の暮らし向きについて、「良くなった」を1点、「やや良くなった」を0.5点、「やや悪くなった」を▲0.5点、「悪くなった」を▲1点とウェイト付けし、各項目の回答者数割合を乗じてDIを算出した。

暮らし向きDIは、岐阜県が▲7.0（前年調査比8.1点増）、愛知県が▲13.3（同0.9点減）、全国が▲10.8（同0.2点増）となり、愛知県は過去最低であった。また、生活満足度と同様に、2017年の調査開始以来、初めて岐阜県が愛知県を上回った。

地域別・年齢階層別のDIをみると、プラスとなったのは岐阜県の30歳未満と30歳代のみで、それ以外ではすべての地域・年齢階層においてマイナスであった。

いずれの地域においても、若い世代のDIが比較的高く、40歳代、50歳代で低下し、60歳以上になると改善する傾向にある。

暮らし向きと生活満足度の関係を見ると、各地域とも暮らし向きDIは年齢によってばらつきが見られるが、生活満足度は全体的に中位付近に集中している。いずれの地域でも60歳以上になると暮らし向きDIが好転し、生活満足度も向上している。



3. 収入と消費支出

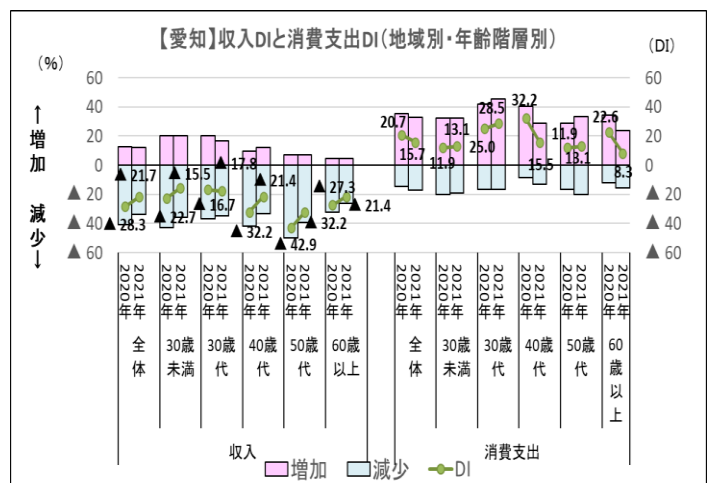
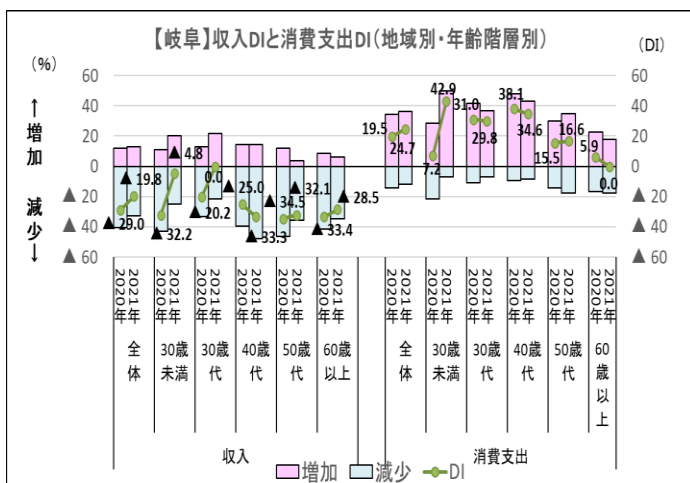
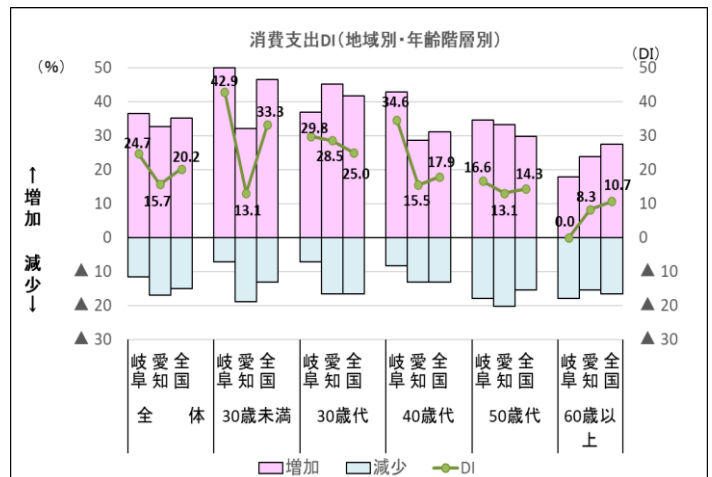
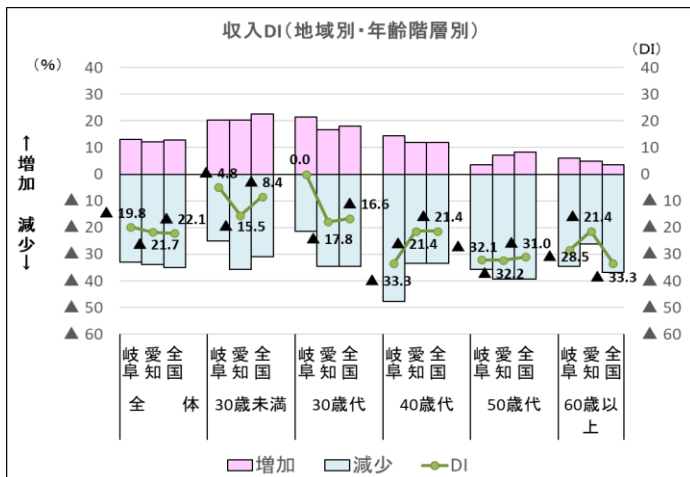
収入DIは、岐阜県が▲19.8（前年調査比9.2%増）、愛知県が▲21.7（同6.6%増）、全国が▲22.1（同1.4%増）となり、いずれの地域でも改善した。

地域別・年齢階層別の収入DIをみると、最も高かったのは、岐阜県が30歳代、愛知県と全国が30歳未満であった。また、最も低かったのは、岐阜県が40歳代、愛知県が50歳代、全国が60歳以上であった。

消費支出DIは、岐阜県が24.7（前年調査比5.2%増）、愛知県が15.7（同5.0%減）、全国が20.2（同1.1%増）となった。

地域別・年齢階層別の消費支出DIをみると、最も高かったのは、岐阜県と全国が30歳未満、愛知県が30歳代であった。最も低かったのは、いずれの地域でも60歳以上であった。

地域別・年齢階層別にみると、収入DI、消費支出DIともに、特に岐阜県の30歳未満が大きく上昇し、それぞれ▲4.8（前年調査比27.4%増）、42.9（同35.7%増）であった。



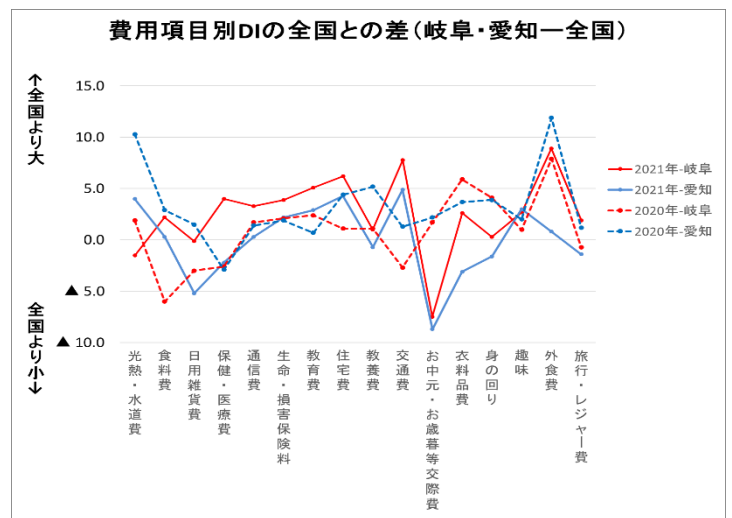
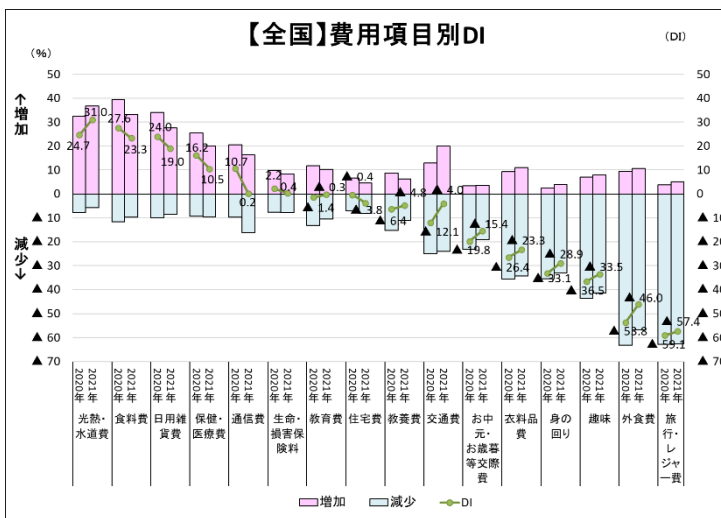
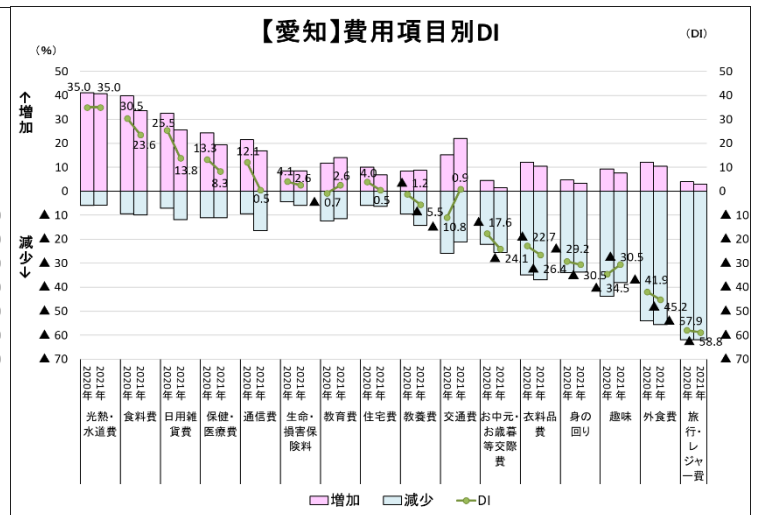
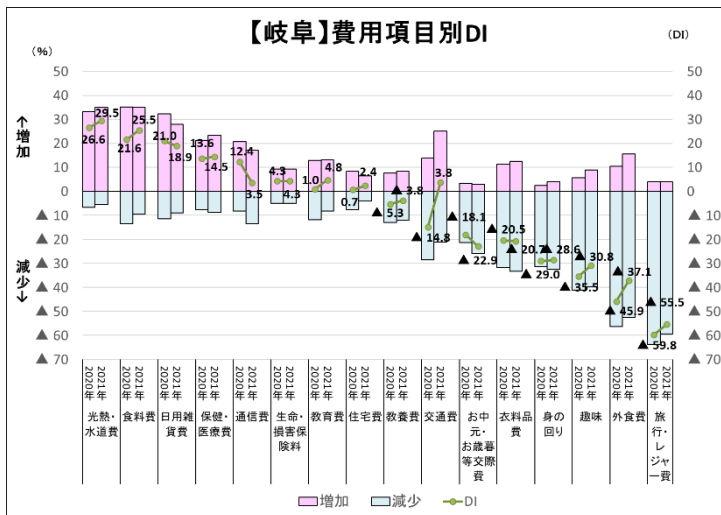
4. 費用項目別 DI

費用項目別の支出について1年前と比べてどのように変化したかを尋ね、DIを算出した。

前年の調査では、いずれの地域でも「交通費」、「趣味」、「外食費」、「旅行・レジャー費」など外出型の費用項目の低下が非常に大きかったが、今回は愛知県で「外食費」、「旅行・レジャー費」が低下した以外は、いずれの地域でも上記の外出型の費用項目は上昇した。

費用項目別 DI について、全国と岐阜県・愛知県との差、およびその変化をみると、岐阜県、愛知県ともに最も差が大きかったのは「お中元・お歳暮等交際費」で、次いで「交通費」であった。

前年の調査では、両県の交際費への支出は全国水準よりも高かったが、今年は全国で「お中元・お歳暮等交際費」を減らす動きが抑えられた一方、岐阜県・愛知県ではその動きがさらに進んだことでその差が拡大した。また、「交通費」への支出はいずれの地域でも DI が上昇し、特に岐阜県では 18.6 ポイント増と大幅に上昇した。岐阜県は全国的にみて自家用自動車の普及率が高く、コロナ禍のなかで「交通費」への支出が増加した要因としては、前年と比較してガソリン価格が上昇していることなどが考えられる。



5. 終わりに

今回の調査では、前年と比較した消費動向の改善度合いにおいて、地域差や年齢階層による差がみられた。

地域別にみると、「岐阜県および全国」と「愛知県」で差がみられた。生活満足度は、岐阜県と全国では満足感が上昇し不満感が低下したが、愛知県では満足感・不満感ともにほぼ横ばいであり、相対的に愛知県の生活満足度が低下している。また、暮らし向きにおいては、岐阜県と全国では改善がみられたが、愛知県では僅かに悪化した。さらに、消費支出 DI をみると、岐阜県と全国で消費支出が増加傾向にある一方で、愛知県では抑制傾向にある。

総合的にみると、消費動向の改善が顕著だったのは、岐阜県の若年層であった。岐阜県の 30 歳未満と 30 歳代では、生活満足度が比較的高く、暮らし向き DI もプラスであった。また、30 歳未満では、収入 DI、消費支出 DI ともに大きく上昇している。

上記のような差については、本調査のみでその正確な要因を探ることはできないが、調査実施時におけるまん延防止等重点措置の適用に地域差が

あったことや、愛知県の基幹産業である自動車産業が、新型コロナウイルスの感染拡大や半導体不足などにより減産を余儀なくされたことなどが影響している可能性がある。

新型コロナ感染拡大の第 2 波のさなかにあった前年の調査においては、生活満足度および暮らし向きがいずれの地域でも悪化したり、外食費や旅行・レジャー費などの外出型の消費支出が大きく減少したりするなど、コロナ禍の影響が色濃く表れていた。第 5 波のさなかにあった今回の調査では、生活満足度がいずれの地域でも前年と比較して上昇したほか、外食費や旅行・レジャー費など外出型の消費支出も一部では増加がみられた。また、収入はいずれの地域でも減少の割合が縮小するなど、前年と比較して好転している部分があった。地域差はあるものの、コロナ禍からの復調の兆しがみえ始めているのではないだろうか。

(研究員 萩原 綾子)